

ふてしこ

12 '19
No.289

巡回通信誌



皇位継承：三種の神器

名誉院長 西 田 敬

今回の慶事に慶辞を奏上。歴史上でも、稀にしか見れぬ、超弩級の莊嚴なる叙事詩 (epic poem) が日本国民の眼前で展開された。平成から令和を繋ぐ皇位継承。

嘗って昭和天皇の御崩御に際しては、輸血の指示の他には、何ら為す術すら知らず、唯々、手を拱いて見守ったのみの無為、無策、無能に終始した医療チーム。生命への尊嚴すら何処かに置き忘れたかの如き為、体が昭和時代の終焉に相応しかった等とは、逆もじゃないが、烏滸がましくて書き遣せやしない。

歴代天皇は血統的には先代天皇の御世

継であるが、宗教的には天照大神の天神御子なのである。皇室は一つの巨大な氏であり、絶対的存在であるが故に、他氏と区別する為の姓名の表記は用いないのが伝統である。譬えば上皇陛下が嘗って、若かりし日にGann (Japanese Journal of Cancer Research) に英文論文を投稿された時も、筆頭著者名はPrince Akihitoと記されたのみであった。

三種の神器は皇位の象徴、しるしである。即ち、八坂瓊曲玉、八咫鏡、草薙劍(天叢雲劍)の三宝であり、古くは三種の宝物と謳われた。抑々の謂は天照大御神が皇孫、瓊杵尊に三種の宝物を授ける事に困って、皇孫及びその子孫に葦原中国の統治権を賦与したというのである。新天皇も伊勢神宮から京都御所まで巡行御幸されて、三種の神器の御継承も滞りなく完遂されたとは拝察する。上皇御夫妻は固より新天皇御夫妻共々、先ずは御健やかに皇位継承を済まされたのは歴史的に見ても、稀有で祝着至極。国民挙りて祝賀したい気持ちであるが、如何。

参考文献：黛 弘道 学習院大学教授

「二種の神器と三種の神器」文春文庫

